

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム うえの
(ユニット名)	さちの家
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市上野町5200番地1
記入者名 (管理者)	田中 洋子
記入日	平成 21 年 9 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を考へて地域住民との交流を目指した内容の理念を作り上げている。		ほとんどできている。 一人ひとりの生きがいづくり趣味を見出して行きたい。 個人買物支援にも力を入れて行く。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールやトイレなどに掲示し、常に意識して、毎日のケアに取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ハッスル便り(新聞)など家族の方へ毎月1回発送し暮らしぶりなど見て頂いている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	常に玄関、門扉の開放で入りやすくしている。出来るだけ気軽に立ち寄ってもらえるように、玄関、門扉の開放、散歩等での挨拶など心がけている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、運動会、グランドゴルフなど積極的に参加している。小学生や地域のボランティアとの交流も行っている。		出来る限りの参加を目指す。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会の話し合いに参加している。 運営委員会の設置で状態を聞いたりしている。 町内会での情報、意見をもとに職員会議で話し合い取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組み、職員の気づきなどにより、ケアの見直しやサービスの質の向上に活かす取り組みをし、努めている。現状維持が出来るように常に話し合っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、意見を頂き職員会議等で報告しサービスの向上に役立っている。		利用者に、よりよい環境のもとでその人に合ったサービスが提供出来る様に全員で取り組む。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市議員さんや、町内会長の意見を頂いている。行事参加も頂いている。		よりいっそうの連携を取りあってよりよいサービス向上を目指す。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の理解はあるが活用までは、現在至っていない。		学ぶ機会を増やして行く。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケア、サービスにあたり虐待は絶対に許しません、いたしませんを実施している。		利用者本人の状態に沿った形でよりよい方向を見極め、家族への説明、了解の元で使用する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所する際、利用者さん家族の方々に十分な説明を行い契約している。その都度、家族等の不安疑問点を苦情箱の設置で解決し納得して頂けるよう心掛けている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>その都度話し合いを設け改善出来る様努めている。</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情など早期解決を心かけ話し合いを設ける。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理など面会時や電話にて報告している。毎月ホーム便りを発行し、行事の様子など写真を載せて解りやすく報告している。ハッスル便りなど細目に発行し家族の方々に安心、信頼して頂けるようにしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話などで家族からの意見や苦情を聞き、サービス改善に活かしている。苦情処理ノートを設置し意見不満苦情等の早期解決に心かける。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回、職員会議、ケース会議など行いそれ以外でもその都度開き解決出来るように努めている。常に、意見交換が出来る様にしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の就寝時間、生活リズムなどに合わせてスタッフの勤務時間を調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新規採用者は先輩職員と勤務を組み、徐々に利用者や仕事に馴染めるよう計画し利用者への影響を最小限に抑える様工夫している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会等の情報を集め、スタッフに回覧できるだけ受けようになっている。</p>	<p>積極的に取り組んで行ける様な体制づくりを心がける。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム経営者連絡協議会等で情報交換している。</p>	<p>同業者と交流する機会を持ちネットワークづくり、勉強会などとして行きたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務希望、勤務交替を全面的に取り入れている。職員の意見、相談をその都度聞き入れ話し合いを行っている。</p>	<p>食事会などを開き、ストレス解消チームワーク作りに取り組む。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勉強会への参加に声がけしている。</p>	<p>スタッフ同士が意見を出し合い、個々が努力して行く。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>会話を通して信頼関係を深めていく様努力している。本人が納得できるよう対応に努めている。</p>	<p>もっとコミュニケーションを取り、何でも話しやすい雰囲気作りに心がける。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族から意見相談を受けた時すぐ対応し本人が納得できる様に努めている。</p>	<p>話しやすい雰囲気作りに心がける。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めている事を見極めながらプラン作成している。		スタッフの接遇・マナーなど取り組んで行きたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	声かけ対応を工夫し、職員同志連携を取りながら勤めている。		安心して生活出来る様に対応する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との会話に心がけ、共感し共に笑い悲しみ心の通じ合う良い関係作りに努めている。		もっと一人ひとりじっくりと会話しスキシップを取って行く。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	情報提供、近況報告を行い家族の意見を聞いたり信頼関係作りを行っている。		スタッフと家族のコミュニケーションの場を設ける。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会、敬老会、クリスマス会など本人との交流の場を設けている。		家族の方が来られない利用者様には、寂しくない様声がけを行う。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暑中見舞い、年賀状を出すなどして大切にしている。		行事等の参加など呼びかけをして行きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	本人のペースに合わせて生活出来る様に見守りながら互いに助け合い刺激を受け、楽しい生活が送れる様に支援している。		トラブル防止に努め孤立のない生活を支援して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院入院の場合は、HPのSWや相談員に相談し家族が困らない様に努めている。		入院時は、お見舞いを兼ねて情報を交換しより良い日々を過ごせる様に信頼関係を大切にしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース会議、担当者会議で現状を把握し利用者の意見を尊重している。プランに取り入れ良い毎日が送れる様に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの話を聞き個人記録にて把握に努めている。		気付き帳に記入し生活しやすい状態にする。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース会議や毎朝の申し送りで現状を把握し、その人らしい生活が出来る様努めている。		日々の状態チェックやスタッフによる情報交換を行いベストな現状維持が出来る様に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議、担当者会議及び問題発生時に家族、Dr、スタッフ、本人で話し合い計画を作成している。		日々のコミュニケーション作りを大切にしながら本人のよりよい暮らしを見出して行く。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の変更など、見直しをする時は、その都度本人又は家族等に連絡し新たな計画を作成している。定期的なモニタリング、月々のケアプランチェック表での担当者の評価を参考にして、プラン作成、見直し等している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、ケアプランのチェックや申し送りやケース会議、担当者会議での情報を共有し必要に応じ見直しを行っている。		記録を充実させ情報を密にする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接デイサービスとの関係にて、温泉浴やイベントなど実施している。		温泉入浴を大変喜ばれます。出来る限り回数を増やして行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回消防署との合同避難訓練、野里小学校、民生委員、町内会長さん方に協力頂き地域での生活が安全に楽しく出来るように支援している。		近所集落との交流をもっと取り入れていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のサービス事業所と定期的に話し合ったり、情報提供しあい支援している。		必要に応じて積極的に、他サービスの活用を支援して行く。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターと協働は出来ていないが、いつでも連絡相談ができて話し合いを定期的に持ち連携を図っている。		より積極的に構築に取り組む。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者の係りつけ医により適切な医療を受けられるように支援している。係りつけ医との情報交換を密にし、利用者様の少しの変化も見落とさない様に、様子観察行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	その都度利用者の様子など相談し適切な治療を受けられるように支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	連携を取りながら支援している。当ホームには3名の看護師があり、連携を取りその都度相談支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会を細目に行い家族や医療機関との情報交換や相談に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や係りつけ医とも話し合いをし方針を共有している。必要に応じ家族の希望で特老への申請も行っている。家族が近隣にいない方も、電話や帰省時などで話し合いをし方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	変化に備えて検討や準備を行い、係り付け医とも連携を取りながら支援に取り組んでいる。家族や利用者様の希望に沿える様にスタッフで勉強会を開き、より良い支援が出来るよう努める。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	少しでもダメージが軽減出来る様に細目な情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報やプライバシーは確保されている。ケース会議、担当者会議等で使用する場合本人、家族に承諾を得ている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者さんの希望に備える様納得いくように支援している。自己決定出来ない方には声かけにて行なっている。本人のペースで生活できるように見守り声かけ支援行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人のペースで生活出来る様に見守りながらレクリエーション、戸外への散歩、歌や踊りなど有意義に過ごせる様に支援している。本人のペースを大切にしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみ(髪、服)やおしゃれが出来る様声かけ支援を行っている。散髪はスタッフが行なったり、家族の方が連れて行かれる方もいらっしゃる。女性の利用者には、家族の方が化粧品もって来て頂いており、行事の時など口紅をさし、オシャレを楽しまれており、ふだんの日でも声かけ行なっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>何が食べたいかを聞いて、好みの料理を出したり野菜の下ごしらえや片付けなど出来る方には、手伝いを頂いている。季節の物を取り入れた料理を出している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好調査を行い、本人の嗜好に合わせて楽しめるよう努めている。コーヒーの好きな方には、いつでも飲んで頂ける様声かけ行なっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて声かけ誘導介助を行い失禁がない様に取り組んでいる。個人により日中は布パンツでトイレの声かけ誘導をしている。日によってパタンが定まらない時もあるが、諦めずサインを見つけ気持ちよく暮らして行けるよう努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴、足湯、温泉利用にて大変喜ばれている。又必要に応じて都度シャワー浴して気分よく過ごされている。入浴の順番を変えて不公平のないよう心かけている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように日中の声かけに取り組んでいる。昼間、身体を動かして心身ともに安心出来る様に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外気欲をしたり、外食やドライブに心がけるなど外に出て気晴らしになり楽しい時間をつくる様にしている。		行事を取り入れ、張り合いや喜び、楽しく暮らせるよう日々目指して行く、買い物など全員で行ける様心がけたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方がお金の管理が出来ておられる。		お金を所持して使える方は一部しかいらしゃらないが、他の人も日常生活品の購入など一緒に行って行きたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近場の散歩程度である。		楽しく気軽に自由に出かけられる環境作りも心かける。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食、ドライブ、花見などしている。墓参りなど時々支援しているが個人的にもっと家族の応援を頂きながら増やして行きたい。		面会がない人のケアプランに個人外出を取り入れている。活発に支援して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれたり電話を頂いたりしている。また年賀状、暑中見舞いを出したり様子を知らせている。		日常、脳リハ活用的に手紙を書いたり習字をしたりしている ので、それ等を添えて手紙にしてやり取り出来るように支援 して行きたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入りやすい雰囲気作りに心がけゆっくり過ごして頂けるようお茶などだしている。明るい挨拶に心がけ、飲み物など出してゆっくりと会話して頂けるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をせず利用者の自由にさせているが危ない時は声かけ、見守りをして転倒や怪我に注意する。		拘束を必要としないケアの勉強会を今後やって行きたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	実施している。好きな時に利用者が戸外に出られるようにしている。玄関、門扉等日中は鍵かけしていない。戸外に出られた時は見守り強化転倒への見守りには付き添う。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在しているかスタッフ同士連携を取りながら実施している。		常に所在確認、行動を見守り優しく対応する。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は保管庫に納め鍵かけしている。また石鹸等は、個室に置いてある所もある。常に薬は鍵かけ保管している。危険物(シャンプー、ハイターなど)の片づけは忘れられないように気をつけている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬がない様にスタッフ間で直前に確認し合い実施している。ヒヤリハット事故報告などで話し合い常に意識向上に努める様になっている。夜間2時間置きの巡視、必要に応じて訪室し所在確認、様子観察している。戸締り火気確認を必ず行う。小さなヒヤリハットも出し合って未然に防げる様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員会議等で勉強会に出しているが一部の職員のみが来ている。		全ての職員が応急手当や初期対応が出来る様になるまで定期的に訓練をして行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方に協力をしてもらえよう声かけし定期的に避難訓練をしている。		地域の方々の協力体制を行う。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人、家族へ説明し対応策を話し合っている。また特老への申請など話し合いの上行っている。共同生活する事で住みやすく楽しい暮らしを目指し行っている。家族へは日々状態報告して話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日朝食前にバイタルチェックを行い異常のある方は再検し様子観察する。また受診が必要な場合は病院、家族へ連絡し早目の対応に努めている。その都度状態変化などの様子観察や水分補給など心がけている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士で利用者さんの名前を確認徹底し誤薬しないように服薬支援している。		薬保管は鍵付き棚に直し誤飲しないよう職員同士確認の徹底を行い間違いのない様にする。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫(毎朝牛乳、おやつに薩摩芋類を取り入れている)、リハビリ体操、ストレッチ、マッサージ、腹圧、歩行訓練など取り組んでいる。排便チェックを行い自然排便できるよう声かけ支援する。水分摂取の声かけを細目に行う。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行い義歯や口腔状態を観察している。歯ぐきの状態、噛み合わせなど本人に聞いたり確認する。		義歯等のブラッシング出来る利用者さんには自力でもらい自立を促す。出来ない利用者さんは介助し口腔内清潔保持に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日報に記録し食事水分摂取状態を把握している。自分で飲んで頂けるよう声かけしている。飲まれない方は本人の好きな飲み物を出している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種、手洗いうがい居室の換気衣類の調整等を行っている。スタッフは出勤時の手洗い、うがいの実行を徹底している。		日頃から手洗いうがい、水分補給等に気をつけている。病院受診の際は、マスク使用するなど病気にかからない様、予防対策に力を入れて行く。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	介助エプロンと調理エプロンの区別をしている。調理器具は消毒している。食在庫や冷蔵庫の掃除を定期的に行なっている。賞味期限をまもっている。日頃、手洗い、うがい等徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉の開放を行い、どなたでも入って来て頂けるように雰囲気にかかっている。		花壇には花を植え、玄関には季節の花を飾り明るく和める様に心がける。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は清潔にしている。季節の花を生けたり壁面の飾り(季節感)を出し居心地よく過ごせるようにしている。日々の掃除を徹底する。トイレ臭いがない様にハイター液でトイレの中は掃除している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座りテレビ鑑賞や会話を楽しまれている。玄関先の渡り廊下の椅子に座り、外気浴されたりしている。誰もが落ち着いて、ゆっくり過ごす場所を作れるよう工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていたタンス、家族との写真や本などを置き工夫している。本人の居室で自由にゆっくり過ごされている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の窓やリビングの天窓を開け換気している。温度計で湿度差が出ない様に換気空調に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、ギャジベッド、車椅子対応型洗面台があり、バリアフリーとなっている。行動しやすい空間作りと見守りを強化している。危険物の整理整頓を行なっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	残存機能を活かして、自分で出来ることは出来る様に声かけ見守りを行っている。残存機能を活かし出来ることへの声かけ見守りと一緒に行動している。(調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、物運び等)		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラス下で夕涼みをしたり会話を楽しんでいる。菜園や花園を作り、外気浴など楽しまれる。芝庭はポニーがいて、餌やり等を行なっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

月1回の温泉入浴を楽しみにされているが、今後は、この温泉入浴を2回に増やして行きたい。「ポニー(小馬)」2頭がホームに仲間入りしています。入居者の方々がポニーを見に居室から出る機会が多くなり、外でのお茶も格別ようです。利用者の方々が、安全に安心して楽しく過ごして頂き、長く居たい施設を目指して努力します。